

## 第1部 客員講演

### 日本における信用形成の道筋

#### 近世日本農村社会の市場経済化と「信頼・信用」関係 —上塩尻村におけるイエ・ムラの諸関係と市場・仲間・金融—

長谷部 弘

#### 1. 「信頼」の問題構図

##### 1-1. 「信頼」関係はなぜ重要か？

- ・関係を安定化させる必須の要素

##### 1-2. 日本の社会は高度信頼社会か、低信頼社会か？

- ・フクヤマの social capital (社会資本、関係資本) と高度信頼社会論
- ・濱口「間人主義」論的再構成
- ・山岸の行動科学的分析による低信頼社会論  
→現代日本社会の「独自性」をめぐる論争

##### 1-3. 「取引」と「信頼」

- ・原理的世界では理論に内在 (近代資本主義精神・エトス)
- ・「取引コスト」と「機会コスト」→「信頼」によるコスト低減
- ・現実の経済社会における流通市場の取引には「信頼」が不可欠

#### 2. 日本における「信頼」の歴史的位相—経済史の視点から

##### 2-1. イエ・ムラ社会における「信頼」と「安心」

- ・近世的農村社会の構造は市場経済・資本主義経済社会の登場とともに漸次解体  
→「イエ・ムラ」的社会
- ・過渡的性格を複雑に含み込んだ社会→安定化の構造も複雑

## 2-2、「安心」の共同性としての家族・同族、家連合

- ・生産活動と消費活動を軸とした生活全体を包括する社会関係
- ・「合理的原価計算」(M. Weber) ではない「無限の奉仕と無限の庇護」
- ・「信頼」原理ではなく包括的な「安心」原理(同一祖先・血縁規範)
- ・仲間内(安心)と仲間外(無関心・疑心暗記・敵対心)

## 2-3、「信頼」の共同性としての仲間・講・無尽

- ・市場経済の展開と非「イエ・ムラ」的組織化の必要性
  - 市場的取引行為をもたらす「合理的原価計算」と「コスト」的価値観
  - 取引の安定装置としての「信頼」関係が必要(「安心」の不適合性)
- ・「仲間」: 同種の市場取引活動を行う商人の同業者組織
- ・「講」: 経済講(金融・仕入・販売・・・)
- ・「無尽」→金融講

## 3. 農村社会における市場経済の展開と「信頼」の共同性

### 3-1. 「神明講」= 蚕種取引市場における「信頼」の共同性

- ・蚕種取引活動とともに18C末に形成された蚕種商人の業界組織(=「仲間」)
- ・中核的商人村落である上塩尻村が中心
- ・行政村ごとの組織と販売地ごとの組織
- ・組織の中心: 親睦と取引倫理規制
- ・蚕種市場の維持のため、個々の商人への取引上の「信頼」を組織として保障

### 3-2. 「家族」と「マキ」= 「血縁」規範原理に依拠した「安心」の共同性

- ・市場経済にはあまり適合的ではない生涯生計維持集団
- ・「山崎」「佐藤」「清水」「塚原」「馬場」「小祝」等の村内主要マキ
- ・マキ間の競合・浮沈とマキ内部の競合・浮沈
- ・19世紀にはいと有力マキのみ同族関係を強化保持

3-3. 「講」と「無尽」＝市場経済に対応型に契約原理に依拠した「信頼」の共同性

- ・凶作対応型の「永続講」
- ・ケース・バイ・ケースの各種「講」

※インドネシア社会の「アリサン」からの照射

#### 4. 残された課題と展望

4-1. 家連合の機能組織は、どう考えられるか

4-2. 共同体論から「共同性」論へ

#### 【参考文献】

N・ルーマン『信頼—社会的な複雑性の縮減メカニズム野崎和義』（大庭健・正村俊之訳、勁草書房、1990）

F. フクヤマ『「信」なくば立たず』（原題“Trust”、加藤寛訳）

濱口恵俊『日本型信頼社会の復権—グローバル化する間人主義』（東洋経済新報社、1996）

山岸俊男『信頼の構造：こころと社会の進化ゲーム』（東京大学出版会、1998.5）

山岸俊男『安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方』（中公新書、中央公論新社、1999）

長谷部弘『近世村落社会の共同性—上田藩上塩尻村五人組組織の事例研究—』（『村落社会研究』）